

漢字を覚える方法があった!

「相」は「きへん」でしょうか? 「めへん」でしょうか? ——そもそも、こんな問いかけから私の漢字の本探しが始まりました。この問いかけは会員さんからでした。それは次のような内容でした。

うちの子(小学校4年生)が漢字に非常に興味を持っています。偏・旁など。太郎次郎社の「漢字カルタ」をやりますが、とてもかかないません。ただ、偏・旁がどうやって決まっているのかしっくり来ないのがでできます。

空が「うかんむり」でなく「あなかんむり」だというのは、まあ、許せます。ところが、村は「きへん」なのに、相は「きへん」ではなく「目」。畑は「火」ではなく「田」。案は「うかんむり」ではなく「木」。このように、何が基準でそうなっているのか漢和辞典ではよくわかりません。

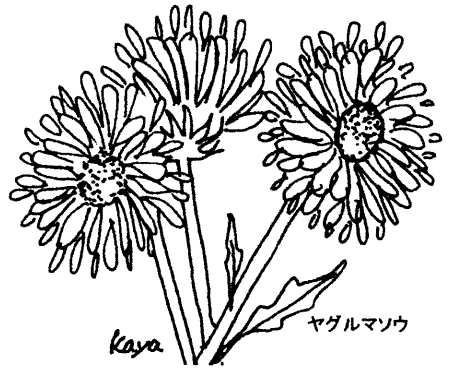
これらに関して、なぜそう決まっているのかなど、4年生でも(もちろん大人にも)よくわかるように解説した辞典または本を紹介していただけませんか?
(鳥取県/D男)

手元の辞書を調べてみると、確かにご指摘のとおりでした。「問」は「もんがまえ」ではなく「くちへん」だそうで、これは難問の一つとして試験に出されるようです。

じつは私には、もう一つ宿題が残っていました。今から2年前、当時の「さーがす」を読んで、漢字の学習の仕方が昔のやりかたにとらわれすぎていて——という忠告をいただき、本を1冊、その本のボリューム以上の分厚いプリントの束を1組、そして「漢字カルタ」が送られてきました。そのうちに……と思いながら、それらにはまだ手がつけられていなかったのです。よし! これを機会に読んでしまおう。あわせて、白川静による『漢字百話』(中公新書)も読みました。結果、これらの本たちは、私を目覚めさせてくれるものとなりました。

もう一つ、前置きを許してください。私は20代後半、日本語に関心をもった時期があり、そのとき、小学生が学ぶ「教育漢字」についても色々調べたことがありました。各学年で覚える漢字の配当数まで暗記するぐらいでした。1年生から3年生までに習う漢字の数は500字弱で、この500字の中に、よく使われる部首のほとんどが含まれることを発見しました。この500字をしっかり覚えれば、あとはその応用がきく——そう確信したものです。

また、平仮名と片仮名を比較して、小学校では平仮名から覚えますが、片仮名のほうが重要ではないか? と思い、その片仮名は1年生で全部覚えるのではなく、2年生までかかるようになっていたので、そのことをずいぶん疑問に思ったものでした。漢字の書き順を



自由闊達・博学・多識 中国と日本の古代世界を縦横にみはるかす

『白川静著作集 全12巻』 平凡社 89500円

漢字///古代学///思想///文化///文学

1910年に生まれる。文字文化研究所所長。立命館大学名誉教授。

覚えるとき、片仮名を無理なく書けるかどうかポイントだと、これも“発見”していたからです。

その後、このあとのページでご案内しますが、「500字で漢字のぜんぶがわかる」と表記された本が出版されたときは、ずいぶんびっくりしました。また、今回の本探しの中で、片仮名を覚える意義について同じ観点で論じられている箇所にもであり、気持ちよく納得したりしました。

というふうに、私にとっては、しばらくぶりの再学習ということになった次第です。

再学習するにあたって、もっとも気になっていたことは、白川静氏の本を1冊も読んでいなかったことです。いえ、一度読みかけたことがありました。1984年、平凡社から白川静氏による『字統』(漢字の字源字書)が刊行されたときです。その辞書のまえがきを読んだり、いくつかの文字を引いてみたのですが、大変難しい内容で、そのうち遠ざかっていました。今回は中公新書の『漢字百話』を読んでみました。「新書」は一般の人が対象だから、まあ読めるだろう、そう思ったのです。確かに、全体を通しては、難易度は「中の上」ぐらいでしょうか？しかし、急所というか勘所(かんどころ)は難易度「上」で消化不良だったのですが、あとでご案内します太郎次郎社から発行されている図書群によって、ずいぶんと助けられました。

その『漢字百話』を以下 最初にご案内いたします。難しく感じられるかもしれませんが、この本の性質ゆえにおゆるしをいただき、そのむずかしい部分を多少端折っても一読されることをお勧めいたします。



「101漢字カルタ」(太郎次郎社)より

白川静/著

『漢字百話』

三千数百年前の神話的世界がよみがえる

漢字の一点一角すべてに意味がある

中公新書 720円 1978年発行 258p 新書判

漢字「月」は夜空に浮かぶ三日月をかたどった象形文字だと言われれば、なるほどそうだなあ、と思える。「手」や「足」も同じく手足をかたどった象形だ。しかし、象形のもの(古代文字)と現代の漢字「手・足」とは字形にずいぶん差があって、説明がないとわかりにくい。

「象形文字を漫画のように、見ればそのままわかるなどというのは、まことに誤解である」(15頁)

「象形は絵画ではない。具象というよりも、むしろ抽象に近いものであり、それゆえに象徴性をもつ。〈中略〉象形文字はその字形の意味をよみとらなくてはならない。漢字は古代的な一種の象徴画にほかならない」(27-28頁)

つまり、漢字の一本一本の線や角や点などには、見落としてはならない意味がある。

「名前」の「名」の字源については次のような説明が多い。——夕方の暗やみで、みずから名のこと(名)で相手に自分を知らせる——夕方の「夕」と顔の一部の「口」が上下にあわさった漢字が「名」という説明になる。しかしこれは間違い。残念ながらそんな簡単な意味ではない。

「夕」は肉を表し、「口」は神様にささげる手紙を入れる器の象形「𠂔」。この古代文字には「サイ」という音(読み)が与えられている。これがやがて現在の字形の「口」になった。

「名」の成り立ち

古代、中国では「養育して一定の年齢に達すると、氏族員としての名が与えられ、祖霊に報告」(18頁)した。その儀式として肉をささげ、文書(祝詞の)を器に入れてお祈りした。これが「名」の字源である。

「口」に対する「従来の解釈が誤りであるとすれば、その系列に属する数十の基本字と、またそ

の関連字とは、すべて解釈を改めなくてはならない」(27頁)

告・古・言・問、……、字形の一部に「口」がある漢字は多い。「問は人の家の門口でものをたずねるといふような字ではない。門の前におかれているものは門であり、神に申すことばである。門は人家の前に立てるものではなく、神の住むところの廟門であった」(36頁) 問という漢字から、三千数百年前の古代中国がかいま見える。



「害」の旧字は、タテの線がもっと下に突き出て「口」まで達していた。神聖な器「匕」に刃先を突き立て、これを害した。「いまの新字はその刃先を折り棄てている」(31頁) 「害」とは、そんなにも恐ろしい字だったのか!

D

19世紀末から20世紀初め、甲骨文字が中国で発見・発掘され、続いて金文と呼ばれる銅器に刻まれた文字も発見された。これら古代文字は現在の漢字の祖先にあたる。古代文字の研究によって漢字の研究は著しい進歩をとげた。

部首法は必ずしも文字の構造に即したものでなく、検索にも不便なことが多い。〈中略〉わが国の字書が部首法によるべき理由は、はじめからないのである。

*『字統』

(『字統の編集について』19頁)より

このような発見と研究が進められるまでは、紀元100年頃に許慎(きょしん)によって漢字の研究書「説文解字(せつもんかいじ)」が編まれ、その影響は1900年後の現在にまで及ぶ。漢字の辞書をひくとき部首に頼ることは多いが、「説文解字」の部首法は、いくらか改変されながらも現在の辞書に引き継がれている。また、字の由來說明も「説文解字」の影響下にある。先の、「夕に名のる」式も「説文解字」によるが、本書の著者・白川静はこれを誤りとした。白川の論調は難解で読み解くのに一苦勞。とてもすらすら明快というわけにはいかない。けれどもいったん理解に達すると、単に字源だけが判明するのではなく、その文字が生まれた文化・文明までが浮き上がってくるので、歴史書を読むようでもある。

D

ところで、「説文解字」やそれに続く辞書群の影響は はなはだ大きく、甲骨文字発掘によって解明された字源説の誤りは放置されたままとなっている。藤堂明保(とうどうあきやす)は『漢字語源辞典』を著し、「語源研究者」として有名だが、「このような俗説の盛行にまかせているかぎり、正しい漢字への理解の道はない」(138頁)と厳しい。(私も、漢字の語源と言えば「トウドウ」と思い込んでいた) 現在においても、漢和辞典の新版刊行や改版がありながら、「名」の字源を神話的に説明したものに出会わない。白川自身が著した『字通』(漢和辞典)が唯一である。

一見、漢字は、その筆画において、その多さにおいて、その使い方において、相当な学習時間が必要のように思える。しかし、本書を一度して読めば、一点一角をむだにしない法則があることを知るだろう。「これ以上の省略が困難と思われる限界のところ、文字が成立している。その一

この誤り多い字形は、これに服従しない限り、学業を履修して社会に出ることも、社会に出て種々の活動に従うことも、不可能となっている。誤りを正当として生きなければならぬという時代を、私は恥ずべきことだと思う。

*『字統』(『字統の編集について』14頁)より

点一画のうちに字の形義が寄せられている」(96頁) 漢字の理解をむずかしくしたのは、法則を無視してまで、字の形を変えてしまったことにある。

D

白川漢字学をやさしく学習できれば……。その期待に応えようとしている人たちがいる。漢字教育活動「漢字がたのしくなる本」シリーズや「かるた」を考案している宮下久夫(故人)らのグループだ。

(このグループの成果は、次頁以降でご案内します)

漢字カルタの指南書

太郎次郎社 2000円 1994年発行 230p 四六判

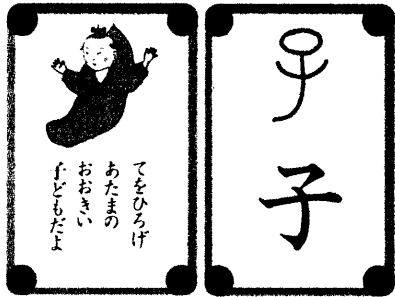
漢字カルタの成立事情とその使い方の本です。

漢字カルタは、次の3種類があります。

- ① 「101 漢字カルタ」
- ② 「98 部首カルタ」
- ③ 「108 形声文字カルタ」 各2845円

伊東信夫+宮下久夫/著
『漢字はみんな、
カルタで学べる』

「101 漢字カルタ」



取り札は、上段に古代文字が、下段に現在の漢字が書かれています。読み札には、漢字の成り立ちが簡潔に表されています。子どもたちはカルタが大好きで得意です。漢字の成り立ちをこのカルタによって暗記してしまいます。

漢字101個のうち76個は部首にもなります。76個の部首に属する漢字は、常用漢字1945字のうち1337字に及びます。それゆえ101個の漢字は「基本漢字」として扱われます。

足の形がまんなかにある右図を見てください。

足の形を上にとどっていくと、足の裏(足跡)をかたどって「止」の字形ができていくのがわかるでしょう。

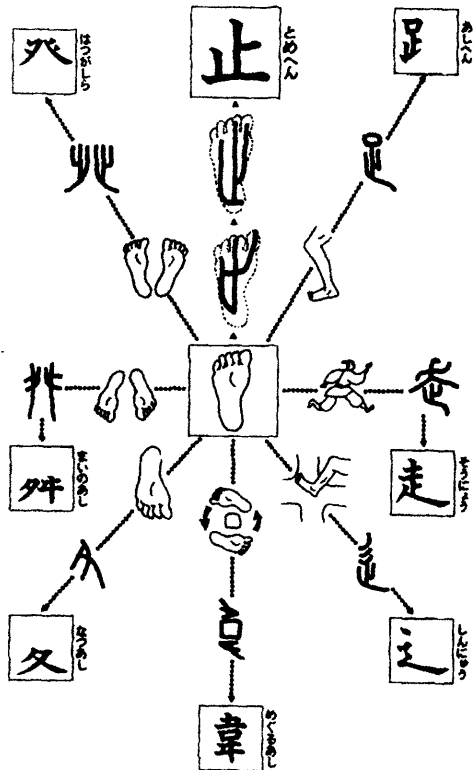
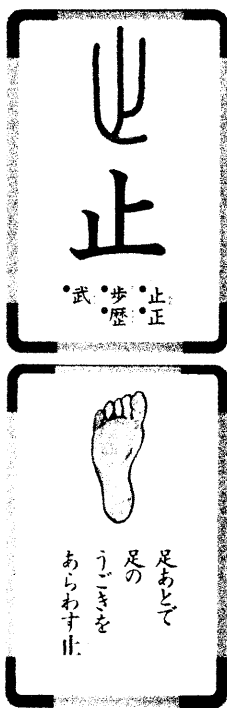
「98部首カルタ」の「止」の読み札にはこう書かれています。「足あとで足のうごきをあらわす止(とめへん)」

「101漢字カルタ」にも「止」があり、基本漢字ですが、その読み札は、「おやゆびにちからをいれてあし止める」

右図でわかるように、足からできた部首が互いにつながりあってパノラマを構成しています。このような漢字のしくみを理解すれば楽しく覚えられます。しかも、カルタ遊びが加わるので、いやがうえにも身につくでしょう。

カルタは、「101漢字カルタ」の次に「98部首カルタ」へ進むように企画されています。「部首カルタ」に出てくる部首98のうち54個は「101漢字カルタ」に入っている基本漢字ですから、その残りを覚えるだけでいいわけです。(この98個の部首に属する常用漢字は1681字で、常用漢字1945字の86%。一般的な漢和辞典の部首の数は220個ぐらい)

「98 部首カルタ」



『漢字はみんな、カルタで学べる』115頁より

ところで、部首については、冒頭1ページのDさんの疑問にもあるように、「相」は「きへん」なのか「めへん」なのか、という難問？に出会います。

ここで、少しだけ中国で編まれた辞書について、『説文解字(せつもんかいじ)』(2頁参照)では部首が540もありました。それから約1600年後、清の時代、1716年に『康熙字典(こうきじてん)』が編まれ、部首は214に整理されました。『説文解字』に収められた字数は9353でしたが、『康熙字典』に至っては4万7000余りとなり、文字検索の必要上、部首の整理やその並べ方に手が増えられました。

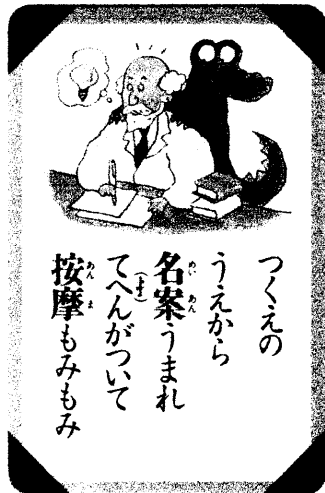
その結果、「字はその構造的な原理から離れ、その構造的な意味も捨てられて、ただ筆画の形式によって分属配列されている。そこにあるものはすでに文字ではなく、文字の形である。意味を失っている記号である」(『字統』「字統の編集について」3頁より)

「部首のもっていた意味体系は随所に破綻をきたすことになった。それは歴史的な事実でもあり、増えつづけた漢字がたどらなければならぬ当然の宿命だったかもしれない」(宮下久夫著『分ければ見つかる知っている漢字』97-98頁。次頁参照)

このように「部首」そのものに欠陥があるのですが、日本を代表する『大漢和辞典』をはじめとして、ほとんどがこの『康熙字典』に準じている現実では、「部首」を習得せざるをえないのです。Dさんの疑問はおそらくここに原因するのだらうと思います。Dさんの疑問、「何が基準でそうになっているのか漢和辞典ではよくわかりません」とありますが、その基準を辞書みずから壊しているのです。ですから、「相」がなぜ「目」の部で、「畑」がなぜ「田」の部なのかは、個々に学ぶしかなく、その由来調べは学者・研究者の領分なのかもしれません。

冒頭二頁 Dさんの回答

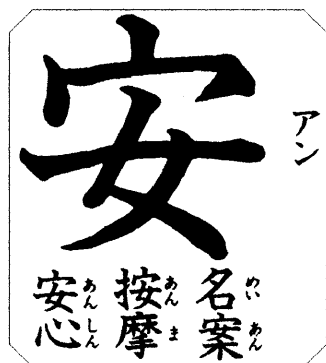
「108 形声文字カルタ」



さて、Dさんの疑問の中に——案は「うかんむり」でなく「木」——とありました。左のカルタでは、「安」という文字が取り出され、茶色で刷られています。「案」は「安」と「木」から成る漢字で、「木」は青色で刷られています。つまり、「案」を分解するとき、「うかんむり」で分けられないのです。

漢字には意味があるといわれますが、「案」の中で使われる「安」には意味がありません。「アン」という音だけを表しています。これを音記号といえます。

「漢字の構造を積極的にとりあげ学習しようとするなら、部首を漢字索引として規定してしまうのではなく、音記号とともに形声文字を組み立てている要素として位置づけなければならない」(宮下久夫著『分ければ見つかる知っている漢字』98頁。次頁参照)



漢字のしくみをその成り立ちから考えるとき、部首でとらえようとすると破綻することが多い。しかし、部首を音記号として見直してみると、わかりやすくなる。こうして、「108 形声文字カルタ」が生まれました。

部首として「木」には「樹木」の意味がありますから、そこから連想し、そして机は木から作られると発展し、「つくえのうえから名案が生まれ」の読み札が出来たのでしょう。按摩(あんま)は手でもむので「てへんがついて按摩もみもみ」と続きます。五七調で読みやすく、カルタを暗記すれば自然と漢字が覚えられます。

取り札 紙面の都合で一部改変

安心の「安」という字については、『字統』によれば、「祖霊に対して安静・安寧を求めるための行為を示す」とあります。しかし、これを音記号として使用するときには、この意味を捨て去るのです。「意味を捨て去らず、意味を持った音記号」も例外として存在します。ただ、漢字の細かなことに関心を寄せすぎると、特に学習期の子どもは混乱してしまいます。「部首と音記号で組み立てられている形声文字の構造をまずしっかり覚えてもらいたい」(宮下久夫著『分ければ見つかる知っている漢字』183頁)というカルタ考案者たちのねらいを活かすことが大切だと思います。

漢字の大部分は、この部首と音記号の組み合わせによってできています。音記号をマスターすれば、漢字を音読みできるようになることはもちろん、字形も記憶しやすくなります。字源への探究はそれからでも遅くないでしょう。

宮下久夫/著

『分ければ見つかる 知っている漢字』

漢字教授法の極意

太郎次郎社 2100円 2000年発行 222p 四六判

宮下久夫、1927年 群馬県に生まれる。48年 東京都教員、49年から87年 群馬県で小学校教諭。97年1月、鬱血性心不全で倒れ急逝。惜しい人を亡くしたものだと思います。この本は「宮下久夫遺稿集」でもあります。

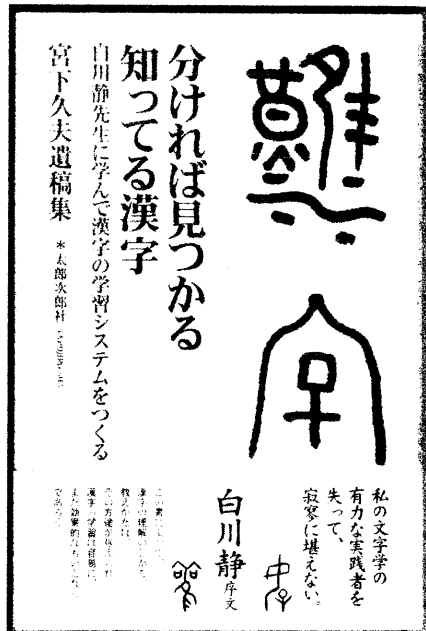
20世紀初頭に発掘された甲骨文字や金文は、『説文解字』や『康熙字典』が編まれた当時、まだ地中深く埋まっていた。これらの編者たちは漢字の祖先をたどることができなかったのです。しかし、近年になっても、甲骨文字など古代文字を研究してきた人たちの多くは、残念ながらこれらの漢字研究書や辞書の影響下にあり、その呪縛から逃れられず、そのため学校での漢字(国字)教育も誤ったままで習得されられ続けています。白川静氏はこれを「恥ずべきこと」(今号「さーがす」3頁参照)と記しています。

宮下久夫、篠崎五六、伊東信夫、浅川満の4人は、教えこませるのでなく、楽しく漢字を学ぶ方法を研究し始めたとき、白川漢字学に出会った。彼らにとっても容易(たやす)いとは言えなかったらしい白川学にくいさがり、しかし、その学びをそのまま援用するのではなく、学習効果を優先させた。その成果＝教授法が、この本に凝縮されています。

不本意ながらも現行学校教育に整合し、しかも、新しい漢字(国字)教育を創出するには……。基本漢字の選出、カルタ考案、「漢字がたのしくなる本」シリーズのテキストとワークブック製作と展開し、今 結実しています。これをぜひ活用しようではありませんか!!

白川学はノーベル賞級とその評価は高いのですが、まだ一部の知識人だけのものでしかありません。学校教育というレベルでの普及が望まれます。

“漢字は部首だ”の呪縛から解けない人、「形声文字(音記号)」のしくみを、じゃあもう一度勉強してみようと思うようになったおとなたちにも、この本をお薦めいたします。ぜひカルタと一緒に活用して楽しみながら学んでください。



カルタだけではありません その1

「漢字がたのしくなる本」シリーズの4人が見つけたのは、カルタだけではありません。

漢字の法則や性質を次々と発見し、それを楽しい教具に仕上げています。



「十の画べえ」これは教具です。10色に塗り分けられた<画>を切り抜き、それらの画を使って漢字を作ります。「漢字組みたてシート」の上でパズル感覚で自在に組み立てることができます。

太田次郎社 1835円 A4判 小学1・2・3年生の使用が目安。

「画」とは、漢字を書くとき、ひと息で書く線や点のことです。古代文字には絵画的要素が残っていて、その筆画は曲線が主ですが、漢字が生まれて三千数百年の間に字の形は整えられ、書きやすい直線が主になりました。その結果、漢字の楷書の場合、どんな漢字もわずか10種類の「画」で書けるのです。

画「10種」のそれぞれには、左図のように変形がありますが、これらは字を覚えていくときに確認することになります。言い換えれば、一見複雑に見える漢字の書き順のなかに**共通性**をみいださうというものです。

子どもが字を書き間違えると、手取り足取り(足は取らないか?)、「こう書くのよ」と黒板やノートに手本を書いて示そうとします。一字一字そう対応するものでから、子どもも一字一字書き順を覚えようとしてしまいます。悲劇なのは、マス目の入った百字練習帳で、マスを一つずつ下に移動させながら書き順を写す指導を受けることです。時間と労力をかければ漢字が覚えられるとでも思っているのでしょうか。子どもには苦痛しか残らず、漢字嫌いになることは目に見えています。

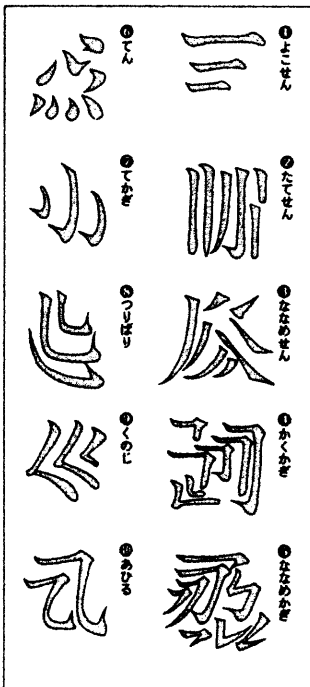
一方、「十の画の秘密」がわかっている子どもたちには、こんな指導ができます。

——たとえば、「水」が4画できていることを低学年の子どもたちに説明し、納得させることは意外にむずかしい。けれど、画の名を知っていれば


かんたんにできる。「まず、まんなかに**たてせん**ではねる。つぎにその左側に**ななめかぎ**、つぎは右側の上から左へいく**ななめせん**、さいごは右へいく**ななめせん**。4つの画できあがり」こうすると、子どもたちの頭のなかには、画の形が書き順とともにつながっていき、漢字全体の映像ができあがっていく。もちろん、最初は板書によってその形を確かめなければならぬが、一度、その形を確かめれば、あとは形が消えても、画の形とその名が細かい漢字の部分までも鮮明に思い出させてくれるのである——(宮下久夫著『分ければ見つかる知っている漢字』66頁)

どのようにすれば子どもが漢字を無理なく覚えられるだろう——この命題に取り組んでいる先生は過去少なからずいたでしょう。その多くは経験則の域を出ないものと推測されますが、しかし、このように画の共通性をみだし「十の画」として法則化させていることに、驚きをもって敬意を表したいと思います。画数を数えるとき、これで迷うことも少なくなるでしょう。

「漢字はみんな、カルタで学べる」56頁より



カルタだけではありません その2 もっと遊ぶぞ!! ビンゴ&トランプ

夕	日	木	豆	イ
イ	其	禾	糸	丘
言	糸		女	哥
卩	車	石	貝	才
ネ	ネ	シ	牛	考

「あわせ漢字 ビンゴゲーム」これは教具です。
おなじみビンゴ! ですから、
タテ・ヨコ・ナナメ、どれかそろったら「ビンゴ!」
もうこれだけでワクワクする子どもたちもいることでしょう。
太郎次郎社 1534円 小学3年生から大人までの使用が目安。

まず、厚紙で作られたビンゴ用シートを広げます。二つ折りになっていて広げると幅約48×縦32cmあります。こた

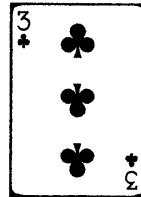
つの上に広げて、2~4人で遊べます。いろんな遊び方ができるのですが、標準的な遊びをご紹介します。

「あわせ漢字」つまり「形声文字」は、部首と音記号の2つの組み合わせでできています。偏へんと旁つゝからなる形声文字は、これを左右2つに切り離すことができます。切り離し用カードはこのゲームに付いています。その偏の部分と並べると左図のようになります。傍の部分は裏返し、場の中央におきます。1番の人から順番に傍の山からカードを取り、ビンゴ用シートに並べられている偏のなかから、出来る形声文字をさがします。ビンゴゲームで遊んだことのある人は、もう後はおわかりでしょう。

「偏と傍」のほか「冠かんむりと脚あし」でも遊べます。このときは、シートを縦長にして使用します。付属で付いている漢字以外にも、自分でカードを作り、難しい遊びにも変身させることができます。



「部首トランプ」これも教具です。
太郎次郎社 1800円
小学3年生から大人までの使用が目安ながら、
文字を知らない幼児でも遊べます。



一度遊んでみれば、まったくふつうのトランプ遊びと変わらないことに気づくでしょう。「部首トランプ」をするときは、漢字の知識はまったくいりません。普通のトランプでは、数字と♣♦♥♠だけを見ながら遊びますよね。「部首トランプ」と普通のトランプと違うところは、さて、どこでしょう?

上図のトランプを見てください。ふつうならまんなか、大きく数を表示表示がありますね。その部分が「漢字スペース」になっています。数字の3が♣♦♥♠の数だけ、つまり4枚あるように「てへん」の漢字が4枚あります。「てへん」の部分が青色で刷られていて、一目で区別がつきます。

「ばばぬき」をするなら、「てへん」同士そろったら場に捨てていけばいいわけです。ジョーカーが残ったら負け。「ポーカー」も出来ます。「てへん」が3枚そろえばスリーカード!

おすすめは「七ならべ」。普通のトランプでも完成すると美しいように、「部首トランプ」では部首がきれいに並びます。このように漢字を「絵」のように見て遊びながら、口の中ではきつと、抜き取ったカードを見て、「あっ、てへんや」「あっ、ごんべんや」と言っていることでしょう。

トランプ2組入り。部首の違う組み合わせを楽しめます。



まだ遊べる！ 「漢字のお経」から「漢字のダム」まで

カルタを初め、ビンゴやトランプをだれがいったい考え出したのだろう？ その創作意欲に脱帽です。あるときだれかの提案だったかもしれませんが、子どもたちの喜ぶさまを一部始終知っている実践者だったのでしょ。試作品を作ってみては子どもたちと遊び、子どもたちの提案を受け入れて仕上がったのだろうと想像しています。

さて、その実践はまだまだ続きます。こんどは、**漢字のお経**です。

左は、小学校3年生でならう漢字を50音順に並べたものです。漢字の意味は一切無視。字が書ける読めるも関係ありません。音読みで振り仮名もふってあるので、そのままただ読むだけです。声を出して読み始めると、自然と抑揚がついてきます。

——この「漢字のお経」は、どこの子どもにもおおうけです。子どもたちは、大よこびでノリにノります。音楽室のトライアングルやタンバリンのバチで、「チーン、ポク、ポク」やったんでは気分がでない、ほんものの鐘と木魚を調達させられたという教室もあります。——『漢字はみんな、カルタで学べる』162頁より

漢字の大部分は形声文字です。部首と音記号があわさった文字が形声文字です。つまり、漢字の大部分を習得しようとするならば、音記号に慣れることがコツといえましよう。しかし、意味のわからない漢字の音だけを覚えようとしても意欲がわくものではありません。そこで思いついたのが「**漢字のお経**」です。これこそまさしく子どもたちの先生が協同して作りあげたものといえるでしょう。

さて、音あそびは、お経をとこなえるだけではありませんでした。①1字で3音以上の漢字はない
②1字が2音の漢字の場合、2音目は必ず「イ・ン・チ・キ・ツ・ク」のどれかで終わる、など、漢字音は10種類に整理されるのです。(たとえば、「シャ・シュ」や「ショウ・ジョウ」は1音、「シキ・ジツ・ショク」は2音。詳細は『漢字はみんな、カルタで学べる』または『分ければ見つかる知ってる漢字』をお読みください)

主・主・丁・長・周・自・己・進・指・矢・云・部・使・ハ
勝・乗・植・申・身・神・真・深・進・世・整・昔・全・心
始・指・齒・詩・次・事・持・式・実・写・者・主・守・取
急・級・宮・球・去・橋・業・曲・局・銀・区・苦・具
悪・安・暗・医・委・意・育・員・院・飲・運・泳・駅・血

『漢字はみんな、カルタで学べる』一六二頁より

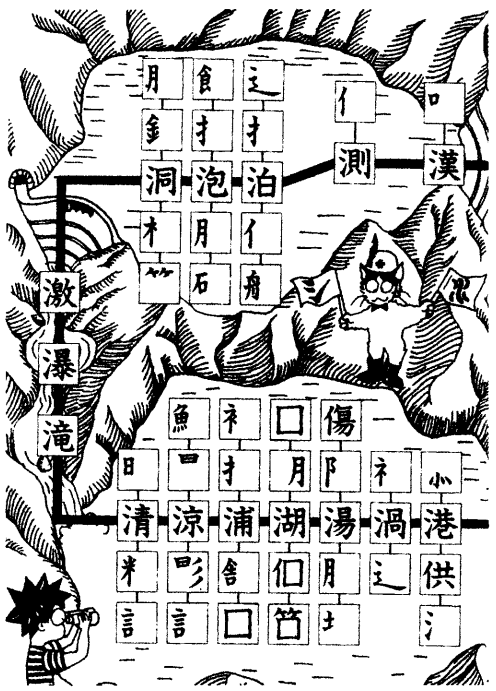
『漢字がたのしくなる本 ワーク4 漢字の音あそび』

「漢字がたのしくなる本」シリーズを作った4人によるワーク
太郎次郎社 1155円 1993年発行 80p B5判
このワークに、「漢字のお経」が載っています。

「漢字のパノラマ」「漢字の広場」「漢字のダム」……」

左の図は「漢字のダム」の一部です。太い線でつながれているのは部首が「サンズイ」ばかりで、水の流れを表しています。サンズイの右側の「音記号」を上下の未完成の漢字にあてはめると、漢字のパノラマが出来上がるという仕組みです。そして、それらの「音記号」はどんな「音」を持っているのか、考えてみましょう。

←『漢字がたのしくなる本 ワーク5』より、その一部分



遊んだあと、テキストとワークを開いてみれば…… おやっ、見たことある字がいっぱい！

漢字がたのしくなる本 500字で漢字のぜんぶがわかる テキストとワーク 各6冊

宮下久夫 篠崎五六 伊東信夫 浅川満 / 著 太郎次郎社

テキスト 各1000円 1989-91年発行 平均66p B5判

ワーク 各1155円 1991-94年発行 各80p B5判

各冊に「手引き書」(B6判 8~16頁程度の小冊子)がついています。

1	テキスト	101字の基本漢字	小学1年生から3年生が使用の目安。 「101漢字カルタ」 「十の圖べえ」 と併用することで効果的になります。
	ワーク	基本漢字あそび	
2	テキスト	128字のあわせ漢字	「98部首カルタ」「部首トランプ」 「あわせ漢字 ビンゴゲーム」 と併用をお薦めします。
	ワーク	159字のあわせ漢字	
3	テキスト	146の音記号	小学3年生から大人までが使用の目安。 「108形声文字カルタ」 と併用をお薦めします。
	ワーク	漢字の音あそび 形声文字1	
4	テキスト	142の音記号	小学5年生から大人までが使用の目安。
	ワーク	形声文字あそび 形声文字2	
5	テキスト	漢字の単語づくり	小学5年生から大人までが使用の目安。
	ワーク	漢字の単語あそび	

カルタなどを使って十分遊んだあと、これらテキストやワークを開くと、見たことのある漢字や絵がそれこそどっさり目に飛び込んできます。それぞれの課題に取り組みたくなるのは当然です。無理のない計画を立て、テキストとワークをこなせば、漢字の基礎はもちろん、その応用までしっかり身につきます。漢字学習につきものだったおもしろくない反復練習とは もうおさらばです。

テキストとワークは各6冊ずつですが、各学年に配当したものではありません。テキストとワークで学習する漢字は学年を横断し、ときには中学校で習う漢字や常用漢字以外にも扱われています。各場面に応じて、学年配当にとらわれず、必要な漢字が選ばれています。

←『漢字がたのしくなる本 4 テキスト』より、その一部分

小学生向けの漢字辞典について

『下村式 小学漢字学習辞典』

下村昇/編著 偕成社 2500円 A5判 1240頁 改訂3版 1999年

すべての漢字にふりがながつけられ、ひいたのに読めない、ということがありません。印刷が鮮明で、かつ見出しが大きく、配色もいいので、ひきやすく読みやすい。

「下村式」というのは、書き順を「下村式口唱法」で唱えながら漢字が覚えられるというもので、「十の画ベえ」に似ています。「下村式」では24の要素で覚えるようになっていて、これの支持者も多いようです。

漢字の成り立ちもわかりやすいのですが、「説文解字」説から抜け出ていないため、白川学説によれば誤りとされる箇所が多々あります(「字源というよりも楽しい読み物と考えて利用してください」と編者の断り書きもありますが……) かしながら、成り立ちだけでは辞書の正否を決められません。子どもには使いやすい辞書なので、お薦めします。

漢字を学びたい おとなたちのために

白川静の辞書・3部作

『字統じとう』 字源字書

『字訓じくん』 古語辞典

『字通じつう』 漢和辞典

なんといっても一番のお薦めは、『字統』です。

平凡社 18932円 B5判 1068頁 1984年発行

普及版(A5判) 6602円 1074頁 1994年発行

——教育漢字、常用漢字、人名用漢字をはじめ、日ごろ使いなれた漢字から見なれない珍しい漢字まで、およそ6800余字について、その成り立ちをさぐった漢字

の字源辞典。著者は中国古代人の精神世界・社会生活にさまざまな角度から光をあて、半世紀に及ぶ研究成果のすべてを傾けて、漢字の生成と展開の次第を系統だてて解明した。引きやすい50音順配列とし、振り仮名・熟語例も多く、索引を完備する。

——(平凡社の出版目録より) 毎日出版文化賞特別賞を受賞

『字訓』 平凡社 17961円 B5判 962頁 1987年発行

普及版(A5判) 6602円 966頁 1995年発行

——われわれの先人たちは、漢字という外来の文字に訓よみをつけることによって、これを日本文字化することに成功した。今日われわれは漢字を何気なく使っているが、日本語と漢字が初めて出会ったとき、日本語の語義や語意識は、漢字本来の字源字義とはたしてどのように対応し適合したであろうか。本書は、成立当時の和訓1821語について、ひとつひとつこの問題を検討した画期的な古語辞典である。——(平凡社の出版目録より)

『字通』 平凡社 21905円 B5判 2100頁 1996年発行

——漢和辞典の最高峰。名著『字統』『字訓』に続く白川漢字学60年の集大成。見出し漢字総数約1万字、引きやすい50音配列。熟語約22万語。用例は古典の精粹を網羅。本書の刊行を機に、『字統』『字訓』と合わせた3部作など、著者の業績に対し、96年度朝日賞が授けられた。——(平凡社の出版目録より)



おとなが使う漢和辞典について

すでに記したように、字源の正しさは白川静氏の編んだ辞書にそれを求めるしかありません。かしながら、字源に誤りがあっても、用例やその解説まで誤っているのではありません。『字統』を併用しながら、すでにお持ちの漢和辞典を活用するのも一つの方法だと思います。

【編集後記】

パソコンの故障

今年の残暑はそう厳しくもなく、暑い夏ただけにホッとしています。7月中頃からパソコンの調子が悪く、その原因を探っていくうちにとうとうメーカー送りとなり、マザーボードやCPU交換というパソコン心臓部の故障であることが判明しました。バックアップをとっていたので幸いデータを失うこともなく、代替のコンピュータを2週間稼働させて急場をしのぎました。こういう変則的なことが起きると平常業務をこなすのがやっつで、そういう意味ではシンドイ夏でした。

白川静/著
『漢字百話』

いろんなことが出来ないのなら——と、積年の課題だった“漢字の本探し”に取り組んでみました。漢字をテーマにするからには、白川静氏の本を読んで学ばなければなりません。『漢字百話』(中公新書)を開いて読み始めた途端、ああもっと早くに読んでおくんだと後悔したことは何度も。かつて(20数年前)、白川氏の文章を読んだときは大変難解に思ったのですが、年齢のせいでしょうか、思いの外 理解が進んだように思います。

漢字制限について

私は従来より「漢字制限」を支持する考えをもっていました。今号でご案内したこれらの本を読んだ今も、その考えは変わりません。しかし、理由付けは大きく変わりました。漢字の歴史の意味がわかってきたからです。漢字の歴史的な成り立ち理解をゆがめることのない漢字(国字)教育が必要だと感じました。その教育を基礎とした「漢字制限」であってほしいと考えるようになりました。

お礼

白川氏の業績については自明でもあります。これを漢字教育に生かして教材を作っている人たちがいたことを知り、深く感銘を受けました。たくさんの資料と助言をくださった篠崎五六さん(「漢字がたのしくなる本」シリーズ著者4人メンバーの一人)に心よりお礼申し上げます。

あなたは

ご存じでしたか?

カルタを初めこれだけ楽しい教材と、理論に裏打ちされているのですから、もっともっと全国に広がってほしいものです。あなたはご存じでしたか? 年齢を問わず、一度カルタで遊んでみてください。

部首法では

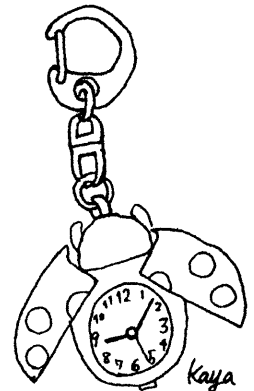
解決できない?

疑問を寄せてくださった鳥取県のDさん、少しは解決したでしょうか? 疑問のなかにあつた「相・畑・案」のそれぞれについて、『字統』やそのほか色々調べました。結果、「案」はおよそわかりました。しかし、「畑」は不明のままです。部首法では解決できないのかもしれませんが。「相」は『字統』の説明がむずかしくて宿題です。しかし、「試験」さえなれば、どの部首か? は、どうでもいいとわかっただけでも、私には成果でした。

楽しい漢字学習法
を広げよう

今号の「さーがす」は、ヒントボックス始めて以来の1冊まるごと“漢字特集”になりました。この小冊子をてがかりに、楽しい漢字学習法を広げてゆくことができればと思っています。

山田 利行



カット: あさ(12才)+かや(14才)

本誌の金額表示は原則として税抜き。税込みは(税込)と表示。

ヒントボックス 山田利行 & 山田輝子 Tel.078.922.7671 Fax.078.922.1188

e-mail: hint-yf@nifty.com URL: http://homepage1.nifty.com/hint-yf/

〒673-0023 明石市西新町2-1-6-405 振替01110-4-6513 三井住友銀行三宮支店(普)7319338